

[23_06]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1470155>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 23 (6), 1990-11-26. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：



Q&A

このページには、センター利用に関する質問（Q）とそれに対する回答（A）を掲載しています。

このページはユーザのみなさんからの質問によって成り立っています。広報巻末の質問票を利用して質問をお寄せ下さい。

Q：TSSでPFDのEDITコマンドやCOPYコマンドにより作成されるデータセットのスペースの大きさはどのようにして決められているのですか。

A：TSSで作成されるデータセットの大きさは、バッチ処理の場合と同じように、初期量、増分量、エクステント回数によって決まります。エクステント回数とは、スペースが不足したとき、スペースを拡張していくその回数で、最大は15と決められています。

データセットの大きさ＝初期量＋増分量×エクステント回数

また、初期量、増分量の単位の指定方法としてシリンダ・トラック・ブロックがありますが、ブロックを指定した場合も実際はトラックに換算されて大きさが決められます。ブロックからトラックへの換算は次の式によって行なわれます。（1トラック＝47476バイト）

$$L \text{ 個のブロックを確保する} \\ \text{為に必要なトラック数} = \left[\frac{L}{\left[\frac{47476}{480 + [(\text{ブロック長} + 12) / 32] \times 32} \right]} \right] + 1$$

[]：切捨て

さて、一般にTSSでは、I) ALLOCATEコマンド、II) PFDのEDITコマンドまたはCOPYコマンドによってデータセットが確保されます。I)、II)について、スペースがどのように確保されるか説明します。

I) ALLOCATEコマンドで確保するとき。

ALLOCATEコマンドのSPACEオペランドで指定した大きさが、そのまま初期量、増分量となります。

例. ALLOCATE DA(ABC.FORT) NEW CATALOG SPACE(20 10) TRACK

初期量 20トラック 増分量 10トラック

最大確保可能量＝20＋10×15＝170トラック

II) PFDのEDITコマンドまたはCOPYコマンドで確保するとき。

・PFDのEDITコマンド場合

初期量 6ブロック 増分量 6ブロック

最大確保可能量＝6＋6×15＝96ブロック（1ブロック＝23440バイト）

・COPYコマンドの場合

例. COPY A B

データセットBの初期量は、データセットA全体の大きさと同じになり、増分量は、10ブロックとなります。